白石区幼保小連携推進協議会だより

令和２年１２月１１日
白石区幼保小連携推進協議会 代表者会

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、連携推進協議会・連絡会がすべて中止となりました。現在のところ、令和３年度は通常通り行う予定ですが、今後の状況によっては、変更になるかもしれません。今回の白石区幼保小連携推進協議会だよりでは、アンケート集約結果、幼小の実践紹介、合同研修会報告についてお知らせします。少しでも参考になれば幸いです。

※各施設からの回答は、札幌市立きくすいもとまち幼稚園 HP に掲載しております。ぜひご覧ください。

アンケート集約（コロナ禍における各施設の工夫等）

回答 小学校 18 校、幼保施設 37 園 回答率 76%

[業務の効率化]　◇小学校　◆幼児教育施設（幼稚園・保育所・認定こども園）

◇消毒が増えたというより働き方改革という意識で取り組んでいる。
◇現在は文科省・市教委の指示通り、通常清掃としているので、担任の消毒作業がかなり減った。
◇行事の精選、見直しを行った。　◇業者に週３回消毒を依頼している。
◇通知表の発行時期を遅らせた。通知表を年度末の１回とした。　◇PTA 活動を縮小した。
◇◆特になし（6 校・17 園）。　◇◆会議を減らした。朝の打ち合わせをなくした。
◇◆行事は必然的に減ったので、その準備や計画時間が削減された。
◆保育補助の人材を採用した。　◆非接触型体温計・自動で消毒液が出る機械を導入した。
◆園からのお便りを配信形式とした。　◆お掃除ロボットを導入した。
◆プラスチック製の玩具はウイルス消滅期間の３日間使わず、４日目以降から使用することとした。
◆作品入れや卒園コサージュ等を手作りから既製品購入に変更した。◆アルコールタオルを各部屋に用意した。
◆コップを持参（園保管）から紙コップに変更した。　◆電解水生成装置を導入した。

[行事開催の工夫]

◇◆運動会～中止、体育授業参観へ変更、ペア学年開催、保護者席立見、入場行進なし、種目数削減、観覧人数制限、開閉会式テレビ放送、３密対策徹底、保護者は柵の外（園外）から観覧、保護者観覧なし（撮影した DVD を配付）、保護者指定席（くじ）
◇◆発表会～中止、全校作品展に変更、学年ごと開催、完全入替制、発表時間短縮、保護者指定席学習 VTR 発表会、演技で大きな声を出さない、消毒・換気の徹底、参加者の事前把握、保護者人数制限、保護者観覧なし（撮影した DVD を配付）
その他～◇参観日は１家庭１人のみ 20 分で行った。特別教室を使用する。　◆参観日は中止した。
◇始業式終業式はテレビ放送で行った。　◆バス遠足から徒歩遠足へ変更した。

[コロナ禍で困っていること]

◇ペア学習、グループ学習が制限される。　◇感染者が出ると学校名が報道で公開され学級閉鎖になる。
◇密にならない授業づくり。　◇子ども同士の関わりをもたせるのが難しい。　◇給食時に会話できない。
◇体育、音楽、家庭科等の授業内容が制約される。　◇精神的に不安定な児童が増えている。
◇遊び場所が少ない。　◇コミュニケーション不足。　◇行事日程の組み直しが大変。　◇◆先が見えない。
◇保護者や地域の方に授業を見ていただけない。　◇◆感染に対し保護者の危機感に温度差がある。
◆何がよくて何がだめなのかを判断すること。　◆園児のストレス・日々の不安・職員の負担が大きい。
◆お迎え時に担任がゆっくりと話を伝えられない。　◆活動の制限が多い。　◆保育士不足。
◆咳や鼻水は常に出ている子が多く、お休みを促すことが難しい。　◆密を避けられないこと。
◆保育士がマスク姿だと表情で伝えることが難しい。　◆行事直前に濃厚接触者が出た場合の対応。
◆食育活動の制限。　◆懇談会への取り組み方。　◆楽しい行事が十分にできない。◆園児のマスク着用。

［小→幼　幼→小　お願いしたいこと］

◇幼児に小学校での生活を何とか伝えておいてほしい。◇就学時健康診断の検査（視力等）の協力を。
◇密を避ける習慣づくりを。（マスクの着用、ソーシャルディスタンス、手洗い、消毒等）
◇小学校の楽しい生活を思い描けるよう、話したり、写真・映像を見せたりしてほしい。
◇コロナ禍のもと、学校で押さえておくべき保護者からの要望、要求を教えてほしい。
◇学校生活に必要な物を用意し、忘れずに持ってくる習慣がこれまで以上に求められる。
◇コロナに伴って小学校生活に不安をもつ方がいたら、「心配ない」と伝えてほしい。
◇温かい関わりによる幼児の精神的安定を図ってほしい。
◇◆このような環境下でも何か交流することができないか考える場がほしい。
◇◆互いの教育活動を紹介する場（画像等）や手立てを考え実施する。　◇◆引継をこれまで以上に密に。
◆陽性者が出たときの早急な情報交流を。　◆リモート形式等での学校紹介を。　◆年長組の学校施設見学を。
◆子どもの内面にしっかり目を向け心に寄り添った声かけや援助を。　◆友達との普通の関わりを。
◆園児は日常的にマスク着用ができない。小学校での取扱い等どのような指導をされているか知りたい。
◆「学校でこんなことをしているよ」という写真やポスターがあるとありがたい。
◆制作物の交換やお手紙交流を。　◆小学校の活動や生活・就学に向けたアドバイスがほしい。
◆このような時ですが、園における子どもの様子を小学校の先生に見に来ていただきたい。

幼保小連携コラム　（札幌市立菊水小学校 教務主任 山本 未央）

菊水小学校ではコロナ禍で入学してきた新１年生が早く学校に慣れ、落ち着いて、自分らしさを出して活動できるように、これまで以上に活動内容を考え取り組んできました。取組を通して１年生は学校にもスムーズに慣れ、楽しく学校に通っています。今回は主に３つの取組について紹介します。

①　スタートカリキュラム

今年度よりスタートカリキュラムを行いました。大きく意識して取り組んだことは２つです。１つはモジュールを用いた１５分ずつの授業を行ったことです。短い時間で授業を区切って行ったことで、多くの子どもたちが集中力を高く維持して学習を行うことができました。もう１つは学習内容です。多くの児童が小さい頃から親しんでいる歌を歌ったり、絵本の読み聞かせを多く行ったりしました。本の読み聞かせは現在も続けており、今では「この本をみんなに紹介したい！」と言う子もいて、意欲的に学習することができています。

②　６年生との関わり

例年様々な活動を６年生とは行っていますが、今年度は給食の配膳車の片付けと掃除の仕方を６年生から教えてもらいました。関わりが少なかった分、教えてもらったことを１年生はしっかりと守ろうと意識して取り組んでいました。関わる時間は少なくなってしまいましたが、教わることができる機会を１年生なりに大切にして関わることができました。また、６年生との関係も深めることができました。

③　菊水スポーツフェスティバル

今年度は運動会が中止となり、代わりとして「菊水スポーツフェスティバル」を行いました。例年、全校で行う運動会では「かわいい１年生」として見られることが多かったのですが、今年度の取組では学年毎の発表となったことで例年以上に注目されるという意識をもって練習に取り組みました。その結果、短距離走や開閉会式等の並び方・菊水ソーランの踊りに意欲をもって取り組む子が少しずつ増え、当日では成長した姿を見せることができました。

１年生は例年とは違う環境や取組の中で生活してきましたが、限られた時間や機会をとても大切にして過ごし、成長をすることができました。今後も子どもと教職員が一つ一つの取組を大切にして、成長に繋げていきます。

札幌市立米里小学校・札幌市立きくすいもとまち幼稚園　連携の取組

（コロナ禍のため、令和元年度の取組を載せています。）

教師同士の交流

幼小の接続期を考え、カリキュラムに生かしていくに当たっては、まずはお互いの教育について知るということが重要と考えています。そのために、お互いの保育や授業を参観したり、研究日に参加したりしています。

幼児・児童の交流

5年生と年長児の交流が互いの教育課程に位置付けられており、年間計画を立てて取り組んでいます。その年度ごとに児童や幼児へのねらい、目標を共有し、活動内容を相談して取り組んでいます。

年長になると歩いて行ける距離に小学校があるので、散歩に出かけて校庭で遊ばせてもらったり、トイレを使用させてもらったりしています。年長学級便りには、連絡事項を自分ごととして受け止められるように幼児向けのページを作成して、親子で確認できるようにしています。

保護者への発信

幼児の期待を高める育ちを支える

小学校までに、これはできてほしい！　その5

皮をむいて食べる…枝豆、みかん、夏みかん（1／4切）など、給食では、自分でむかなければなりません。お弁当の枝豆やみかんなどは、皮ごと持たせるようにお願いします。

皮付きで食べる……りんご、サツマイモ、ジャガイモなどは、逆に皮付きのまま出ることがあります。皮も食べられることを知らせ、食べる機会をつくりましょう。

XIV期　5歳児（11月～12月）のねらい

○目的を共有しながら、見通しをもって遊びを進めていく楽しさを味わう。
○自分なりの目的に向かって最後まで取り組み、満足感を味わう。
○学級全体や同じ目的で集まった友達同士で力を合わせる中で、互いの良さを感じたり、やり遂げた充実感を味わったりする。

幼稚園最後の発表会いや成でし

年長の学級便りでは、小学校生活に見通しをもって、子育てができるようにコラムを載せています。（ちなみにこの号は、「皮付きの果物を食べてみよう」という内容です。）また、保護者には、入学する予定の小学校の見学に行ってみることができるように、小学校との橋渡しをしています。小学校の先生の話を聞く機会（懇談会など）も設けています。

令和２年度　札幌市研究実践園研修事業　白石区研修会　報告

担任一人でどこまでできる？！

～子ども一人一人が力を発揮するための子ども理解とユニバーサルデザイン～

10 月 29 日（木）白石区民センター５階ホールにおきまして、札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるコラボレーターの 大館 美奈子 氏をお招きし、標記の研修会を開催しました。当日は、幼稚園・認定こども園 54 名、保育園 16 名、小学校 19 名、計 89 名の方々にご参加いただき、特別な教育的支援を必要とするお子さんへの具体的な関わり方などを共に学びました。（詳細は札幌市立きくすいもとまち幼稚園 HP をご覧ください。）

「脳のタイプ」の違いを理解し、尊重することが支援の始まり！

自閉スペクトラム症（ASD）の脳のタイプ

↓

●対人コミュニケーション
- 知っていることは全部伝えたい
- 具体的に言ってほしい　など

●限局的反復行動
- 同じもの、同じ動きをするものは安心
- 少しの違いもだいぶ違うと感じる　など

●感覚が過敏または鈍感

注意欠如・多動症（AD/HD）の脳のタイプ

↓

●多動性・衝動性
- なにかしている方が落ち着く
- しゃべりだしたら止まらない
- 思いついたら即行動　など

●不注意
- 確認したつもりでもうっかり失敗
- 気がついたらこんな時間！　など

自尊感情が低め
↓
成功体験、褒められることが、多いくらいでちょうどいい

限局的学習症（SLD）の脳のタイプ

↓

●読字障害
- 聞くと分かるのに読めない　など

●書字障害
- 形を捉えて書くことが難しい　など

●算数障害
- 数字や計算が分からない　など

発達性協調運動症（DCD）の脳のタイプ

↓

●不器用
- 両手の動きを調整できない　など

●運動技能
- よく転ぶ、ぶつかる
- 姿勢の保持ができない　など

ユニバーサルデザインのポイントは？

環境　どこで、何をするのか？

●活動と場所の対応
●感覚刺激に配慮
●機能的デザイン

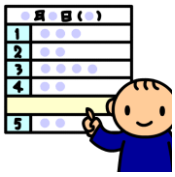
システム　何を、どのくらい、どのように、次は？

●始まり・内容・終わり
●終わったらどうする？

分かる活動にするために…

見通し　いつ、どこで、何を？

●自分で理解
●見通し　　●変化への対応



視覚支援　どのように、何を？

●手がかり
●情報整理
●見える化